

免許状更新講習修了者に対するアンケートの調査結果から

小山 茂喜 (信州大学学術研究院 総合人間科学系 教授)

1. はじめに

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指す」ことを目的とした教員免許更新制が平成21年4月から導入された。その後、中央教育審議会から、「グローバル化など社会の急速な進展の中で人材育成像が変化しており、21世紀を生き抜くための力を育成するため、思考力・判断力・表現力等の育成など新たな学びに対応した指導力を身に付けること」と「学校現場における諸課題の高度化・複雑化により、初任段階の教員が困難を抱えており、養成段階における実践的指導力の育成強化」といった社会的要請から、平成24年8月には、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」が出され、教員の資質向上が大きな課題となっている。

教員免許状更新講習では、受講者に対して受講後のアンケートが課せられているが、内容的には、受講した講座についてのいわゆる授業評価でしかなく、受講したことが教師自身のキャリアアップにつながったのか否かについての状況を知るデータは、免許状更新講習が生まれてくる際のいきさつもあり、これまでなかなかデータとして収集することは難しい状況もあった。

しかし、昨今の大学と教育現場との連携の強化(地域貢献・地域連携のあり方)がうたわれるようになってきたことと、講習が始まって5年という一サイクルが終了する中で、教師の講習に対する受け止めも、以前と比べると前向きに受け止めていただけるようになってきているのではという講習を担当しながらの雰囲気を感じる中で、長野県内の義務教育関係の校長会に相談したところ、教員のライフステージを意識してもらうためにも、協力してもらえる教員だけにでもアンケートをとることは、教育現場の活性化の方策を考えるヒントにもなるのではないかと前向きな回答をいただいた。

そこで、信州大学では平成21年度から免許状更新講習を実施し、長野県内の教員のおおよそ4分の3の教員に受講していただいていることから、これまでに講習を受講した教員が、免許状更新講習の成果を受講後どのように位置づけ活用しているかを探ることで、今後の教員の資質向上に係わる研修のあり方や、免許状更新講習のあり方を探ろうとアンケート調査を試みた。

2. アンケートについて

(1) アンケートの実施方法

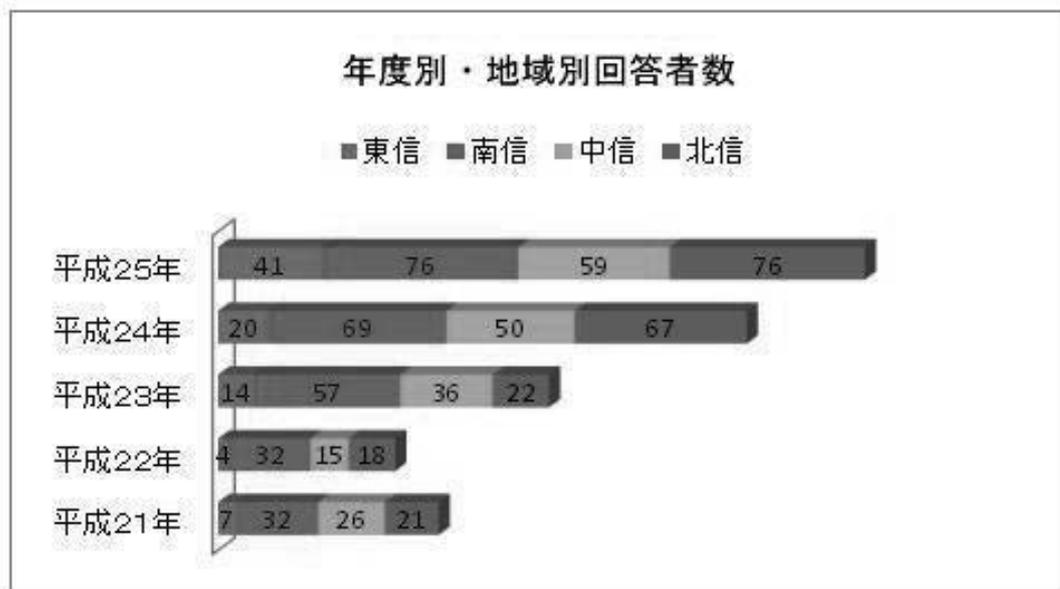
長野県の義務教育郡市校長会を通じ、各郡市（東信：佐久、上田小県、南信：諏訪、上伊那、下伊那・中信：松本、東筑摩塩尻、木曾、南安曇、北安曇、北信：長野上水内、上高井、下高井、飯水）校長会長に、各郡市の小学校・中学校の中から任意の免許更新講習修了者、更新講習受講中の教員を抽出していただき、アンケート調査に応じるかは強制ではなく任意として、平成26年7月から8月にかけてアンケートを実施した。

アンケートの回収にあたっては、応じていただいた教員が所属する学校長が回収し、各郡市校長会長が地域ごとに取りまとめ、最終的には県校長会事務局で取りまとめていただいた。回答については任意ではあったが、657件回収することができた。

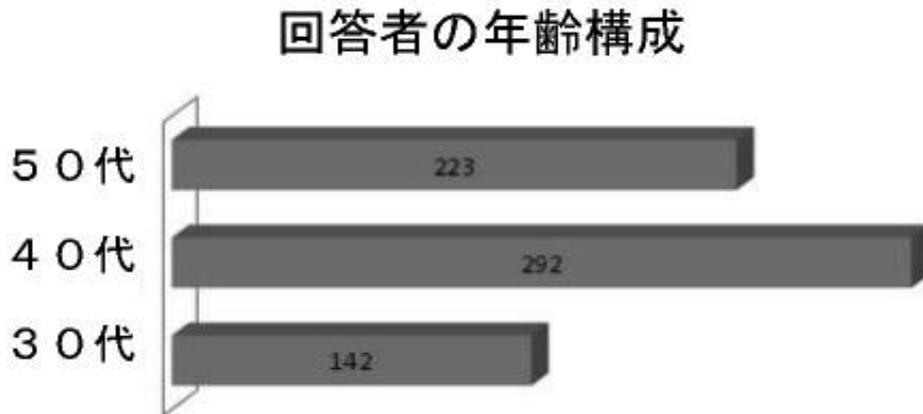
(2) 回答者について

学校種では、小学校の教員が、年代としては40代の教員の回答が多かった。受講修了年度は、アンケート実施直近の年の教員が多いが、一番少ない平成22年度修了者でも回答者全体の1割はあった。

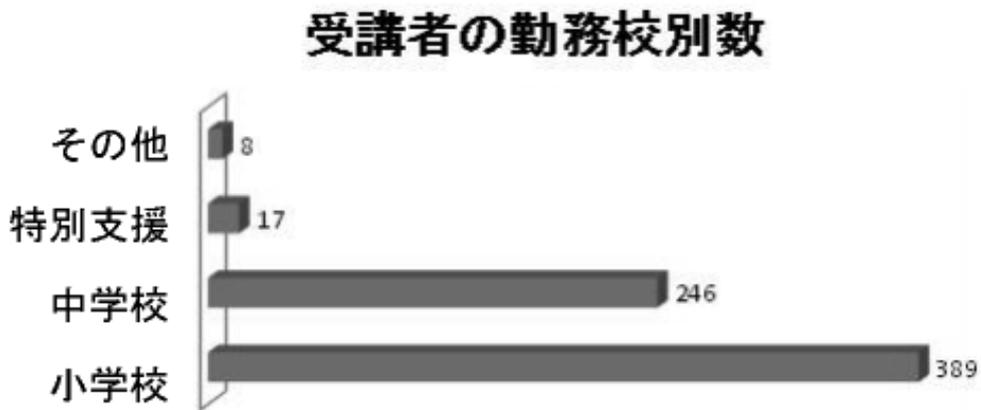
(ア) 地域別回答者の受講年度



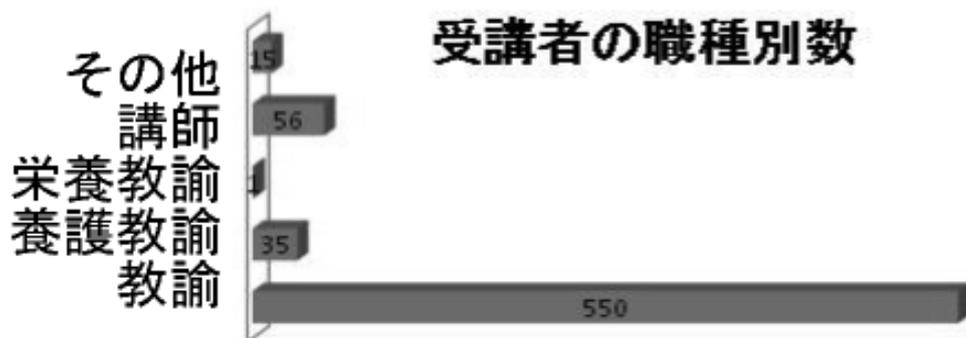
(イ) 年代別回答者数



(ウ) 回答者の勤務校（受講時点での勤務学校）



(エ) 職種別受講者数



3. アンケート結果から

(1) 受講しての満足度

制度が改正され、それまでは1回取得すれば永久ライセンスであった教員免許状が10年で更新しないと失効してしまうということになり、休日等を活用しての認定講習受講ということで、教員の多忙感が叫ばれる中での講習に対して、受講者はどのような感想を持っているのかを探ってみた。

受講しての満足度	30代		40代		50代	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
とても満足	18	12.7%	43	14.8%	38	17.0%
やや満足	39	27.5%	70	24.1%	58	26.0%
満足	53	37.3%	134	46.0%	77	34.5%
やや不満	16	11.3%	12	4.1%	8	3.6%
不満	1	0.7%	4	1.4%	5	2.2%
その他	15	10.6%	28	9.6%	37	16.6%

「とても満足」「やや満足」「満足」を合計した「満足度」は40代が30代、50代より6ポイント高く、「とても満足」は年代が上がるに従って高くなっている。

また、「とても満足」と「やや満足」の合計では30代と50代がやや高めであった。

なお、不満の理由を探ってみると、「専門的過ぎて理解できない」「授業に直接生かすことができない」といった内容がどの世代でも主で、職務に直結する内容を期待していたが、受講した内容が期待はずれであったということであった。

(2) 必修講座を受講しての主な感想から

最新の教育事情を扱う必修講座について、「世界の教育事情」や「学校マネジメントに関わる内容」や「自身の教師生活の振り返りから今後の自分の目標を設定する」といった日々の教育活動の中では扱われていない事柄については、新しく知ることができたという感想がみられたが、反面「講習を受講してから3年が経過したが、その講習の内容が今の自分の中に大して残っていない(30代小学校)」「受講したことが現場に生かされたと思わない(40代小学校)」「現場が求めている内容とずれがあった(40代小学校)」「教師の力量を上げるものとは感じられなかった(40代小学校)」など、その後教育現場であまり生かされていないといった記述もみられ、日々の実践に生かされているとはいいがたいといえる。

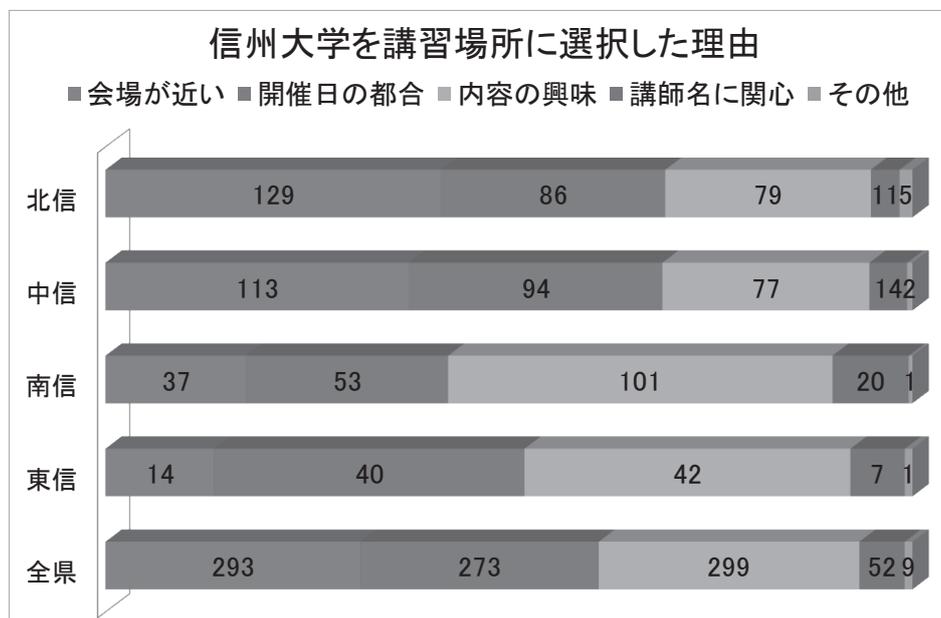
講習が県教委主催の研修と重複しているとの受け止めた教員が81.3%と非常に高く、改めて受講する必要があったのだろうかと感じていることもあり、現場では受講したことがあまり生かされていないと感じている原因になっているとも考えられる。

特筆すべき内容としては、「教育哲学的な話が基本にあるべきか」という質問に対しては、

「あるべき」と回答した教員が 84.6%、「思わない」が 5.0%で、「明日の授業に生かせる内容を」という現世利益的な発想と、「教員としてどう生きていくか」という「理念」に関わる内容との両面を求めていることがうかがえ、教員が抱えている課題が如実に表されているといえる。

また、「保護者からの苦情に対処できる演習講習が必要か」については、「必要」と考えている教員が 75.2%、「教員のメンタルヘルスについての話は必要か」については、「必要だ」が 69.2%で、多くの教員が保護者対応や関連して自身の心の管理で困惑している状況がうかがえる。

(3) 選択講座について



どのような観点で講座を受講したのかをみると、「会場が近い」と「開催日が都合よい」が 30%強で重視されていることが分る。20%強であるが「講習内容」も重要な観点である。長野県の場合地理的条件が大きく作用していると考えられる。「いくつか申し込んだうち受け付けてもらえたものを受講」「てっとり早かったので」「日程に合わせるしかなかった」といった自由記述もみられ、この内容について受講して自身のキャリアアップにつなげたという内的要因よりも、日程や場所といった外的要因で講習選択が行われていることから、「専門的過ぎて」とか「役立つ内容ではなかった」「雑学的な内容で授業には生かさない」といった感想があり、その後の教育実践へ講習内容が波及しているか否かが大きく分かれると考えられる。

また、「大学数学を学ぶのはおもしろいが」とか「一般教養的で」といった記述から、自分自身の教養を高めるということできたが、教育実践には生かしてはいないという感想をみると、講習の内容もさることながら、「教育とは何か」といった教育理念や教育実践研究

のあり方に関わる教師としての資質そのものについての、課題の大きさが改めて示されたともいえる。

選択講座を選んだ理由については、興味関心があるからとしている教員が多いのに対して、記述では内容が難しすぎてわからなかった、レベルが期待していたものと違っていたという「期待値」と「実際値」との差があり、教員の受講後の活用度の低さに、そのことが反映されているとも考えられる。

なお、選択講習の講座を受講してよかったことの回答をみると、多岐にわたる学びをしていることがわかる。(記述資料参照)

受講して良かったとの受け止めの内容に関しては、「教科等の指導の実践に直接つながるもの」「自分自身の教養を高められたもの」の二つに大別することができる。その中でも「明日の授業に使えるような内容」と結びつくものの評価が高い。さらに、その中でも、見学・実技・フィードワーク等の子供たちの学習にも生かされると同時に、日々の研修ではなかなか体験し得ない内容に対する評価が高い。これは、どうしても、日々の業務に追われている教員の置かれている状況から考えると、「認定講習」という意識よりも、「研修」という意識で受講するのが当然のことといえ、教員の研修体系を考えていく上でも、解決していかなければならない課題といえる。

【良かったと記述された講習の主な理由】

○＜国語・文学＞

- ・「国語」：教科指導に役立つものだった
- ・「漢詩の世界」：興味関心があったため・大学に戻ったような気持ちになった
- ・「日本のアヴァンギャルド文学を読む」：自分の興味にあっていた
- ・「ジブリ作品を読み解く内容の講座」：新しい視点からのとらえ方ができた
- ・「太宰治」：同一作品のとらえ方や現在の扱いという視点がおもしろく、中学2年で作品を扱うか
- ・「グリム童話」：深く歴史を理解することができた
教育に直結はしないが、ものの見方を変えるという視点で興味深く楽しかった
- ・「丸山真男の思想」：普段はあまりとれない思索の時間となった
- ・「万葉集」：直接の授業に使用せずとも、演習が楽しく、応用して授業で扱えそうだった
- ・「書道」：教室で子どもたちに教えたところとても集中して取り組めた
- ・「論理的思考を伴う国語教育」：講義と演習で日頃の授業に活かせる内容が多かった
- ・「古典 羅生門・古今・新古今」：中学教材の枕草子に生かされた
- ・「国語 読解の基礎」：教材研究の工夫など実際の授業にすぐ役立つもので良かった
- ・「ピーターラビット」「人間失格」：ともに、いつもは考えないことを知り新しい世界が広がった

○＜社会科＞

- ・「NIE」：新聞のスクラップの作り方・書き方・活用の仕方などがわかった
自分で教材を開発する視点を教えてもらえた・授業で活用できることが多々あった
- ・「実地研修」：長野市内を回り現場目線の見方を教えてもらえた
- ・「諏訪信仰のお話」：知らないことを知ることができた
- ・「善光寺の歴史」：改めて善光寺について学べ、子どもに教えることができた
- ・「経済の話」：学校現場では聞けない経済の話が聞けて難しかったがおもしろかった

免許状更新講習修了者に対するアンケートの調査結果から

- ・「社会科教育法」：指導実践例やグループワークで指導案を作るなどがあった
- ・「経済学講座」：改めて勉強する楽しさを自分自身が感じた
- ・「世界史 戦争の流れ」：演習があり、納得のいく知識が得られた
- ・「地理」(フィールドワークがあった講習)：実際に見て歩いてとても参考になった
- ・「植物と食の文化論」：アジアにおけるそばの起源と信州の風土とそばの文化について、また、アフリカにおけるそばと似たもの食文化等興味深かった

○<算数・数学>

- ・「博士の愛した数式」：専門外の教科で広い視野で考えられた。
難しい数学を本を通して学べ、DVDを通して更に数の奥深さや数学者たちの苦悩や、偉大さを知る事ができ、生徒にも話したくなった
- ・「素数の神秘性を垣間見る」：普段触れることのない内容だった
- ・「素数・行列」の講習」：どのように日常とつながっているか、今どんな研究がされているかとても興味深いものだった
- ・「算数数学」：今大事にしたい授業について理解が進んだ
- ・「算数・数学の授業づくり」：実践例、指導案づくり等今後の授業づくりに役立つ内容

○<理科>

- ・「化学実験」(理学部)：専門分野を深め、授業にも生かせる内容でした
- ・「低温のフシギな世界」：授業でも扱うことのある液体窒素だが、自分の知識が広がり、生徒にも触れさせてあげることができた
- ・「理学部・農学部での講座」：教職を離れて知的好奇心をかきたてられる体験となった
- ・「遺伝子」：学校の授業で役立つ最新の研究についても扱ってくれた
- ・「光で探る分子の世界」：実験・実習があり、興味をもって学ぶことができた
- ・「岩石や地層のでき方と地質図・地形図の利用法」：現地実習がありよかった
- ・「地学や化学の講習」(理学部)：専門的で自分の知識が広がった
- ・「野外地質観察法」：自分の世界が広がり興味深かった
- ・「志賀高原で動植物を実際に見る講座」：志賀のことだけでなく学校でキャンプや登山に行ったときの注意点なども教えていただき勉強になった
- ・「地震発生のメカニズムと建物の耐震性」：豊富な資料と興味深いエピソードがよかった
- ・「バイオテクノロジー最前線」：i p s細胞やクローン等よく聞く言葉がでてきたから
- ・「身の周りにある化学を発見しよう」：実験が主に良かった。専門分野の話が参考になった
- ・「なぜ理科で学び合いなのか」：学び合いの学習形態が広く認知されはじめて来た時期であったので興味があった
- ・「流体力学」：全く新しい視点から学べて新鮮でした
- ・「ウシガエルの解剖」：解剖に必要なカエルの入手先や具体的な解剖の進め方について分かりやすく教えていただき現場ですぐに生かせる内容であったため
- ・「身近な化学から先端科学の話と実験」：化学の歴史や理論について専門外であっても飽きることなく聞くことができた。実験は上手にグループ編成して下さって化学反応の実験をすることができた
- ・「動物の生態—托卵する鳥とされる鳥の攻防戦と進化—」：教科に関わる最新の情報であるから
- ・「森林・樹木が持つ機能—生物的特性からその利用まで—」：教科に関わる最新の情報であるから
- ・「土木」：今まで知らなかったことばかりで、土木そのものに興味がわきました
- ・「岩石」：内容は難しかったが、川へ石を拾いに行けたのが良かった

○<音楽>

- ・「現代音楽」：かなり専門的だったが、内容が濃く、ワーグナー以降の作曲法の変遷についてしっかりと学べた
- ・「共通事項を活かした感性を育む授業」：感性、心情等について再び考えることができ、新たな指導の視点となった。演習で他校種の展開も知ることができ勉強になった

- ・「音楽関係の講習」：すぐ授業に活かせる鑑賞の内容や、アフリカの音楽を紹介して下さった
- ・「楽しい音楽科授業づくり」：普段学校では使うことのない楽器を使って音楽作りの授業づくりのヒントをいただけた
- ・「管楽器指導」：専門的な楽器の奏法を教えていただいたり、実際に指揮を一人一人が振り、ご指導いただいたり、現場ですぐに生かせる内容で、講習を受けたかいがあった。

○<図工・美術>

- ・「美術史」：パラダイムモデルの中に見方が偏っていた中で、覆される見方を教えていただいた
- ・「新学習指導要領と図画工作・美術科」：表現や鑑賞等で感じながら理解を深めることができた
- ・「美術」鑑賞：作品の見方を学べてとても勉強になりました。

○<技術・家庭>

- ・「テキスタイルとその快適性計測・評価コース」：制作した作品は家庭科の授業でも使えた
- ・「新しい発想を生み出すものづくり技術教材」：生活と技術とを結びつけて考える新たな視点をたくさん示唆していただいた。
- ・「はじめて学ぶ繊維と感性」：専門的な内容を分かりやすく楽しく講義していただき楽しかった
- ・「衣食住で使用される色材」：身近にある色について興味があり分かりやすく教えていただいた
- ・「農業に関わる講習」：何気なく学校で作物を作っていますが、目に見えない部分での仕組みや働きがわかった
- ・「繊維の話」：しっかり専門的なことでもなく親しみやすかった
- ・「衣服内気候について」：科学的に着方が分かった

○<保健・体育>

- ・「ジョキング・ウォーク」：講義以外に、実技とその解説があり、一日実りある研修となった
- ・「小学校体育における教材作りと授業分析」：日々の保健体育の授業に役立った
- ・「保健教育と学習指導法」：保健指導で使えるような教材を教えていただき、夏休み明けにその教材で保健指導した
- ・「子どもの健康と保健指導」：より専門的な内容を学べた
- ・「器械運動の基礎」：実践に役立つアイデアが豊富にあった
- ・「性教育」：現場で生かせる内容だった
- ・「小児への救急治療」：緊急時を想定しながらお聞きすることができた
- ・「子どもの健康と保健指導」：発達障害への具体的な指導法を学ぶことができた
- ・「学校の先生に気をつけてもらいたい子どもの頭の病気やけが」：専門的に子どもたちのけがや病気についてわかりやすかった
- ・「ニュースポーツ」：体を動かして自分がリフレッシュでき、学校でも使えるものが多かった
- ・「小学校体育における教材づくりと授業分析」：実技を通して、走り高跳びの指導のこつを学ぶことができた
- ・「最新体力トレーニングの理論と実践」：世代や個人差に応じたトレーニング法を学べた
- ・「小学校体育」：現場ですぐに生かせそうな運動や実践を紹介していただいた
- ・「性教育に関わる課題1・2」：現在の課題が分かりやすく医療現場での切実な実態がわかった
- ・「子どもの健康管理—歯科指導とアレルギー—」：具体的な事例と対処法を学べた
口の中のこと、歯の成長のことをお聞きし、小さい子や小学生に必要なあごを作っていくことが体を作っていくことにも共通していると感じこれからの体作りにとっても参考になった。
- ・「フライングディスク」：実技を通してスポーツの楽しさを実感することができた

○<外国語活動>

- ・「外国語活動いろはのい」：授業で活用したい内容が多く含まれていた
- ・「外国語活動基本のき」：外国語活動の授業がこれでよいのか確認させてもらった。

免許状更新講習修了者に対するアンケートの調査結果から

- ・「ピーターラビット」：初めて知る事がたくさんあり小学校の授業でも活かせるようなことがたくさんあった。見識が広まった

○＜総合的学習＞

- ・「歴史観で教材開発」：自分で教材を開発する視点を教えてもらうことができた
高学年だと、すぐ生かせるので勉強になった

○＜特別活動＞

- ・「仲間づくりや校外学習でのレクリエーション」：すぐに実践できる内容で、自分も楽しかった
- ・「エンカウンターの体験型講習」：学級経営に生かすことができた
- ・「ネイチャーゲーム等」：学校の行事・キャンプ・野外活動。学校経営に生かせる内容であった

○＜その他＞

- ・「障害のある子どもの支援」：実情に合っていた 職場で活かせるお話だった
- ・「コミュニケーションの障がい疑似体験しよう」：アイマスクやノイズなどの体験ができ、他の受講者と感想を共有し合う中で障がいへの理解、他者理解を深めることができた。グループディスカッションしながら体験活動でき理解しやすく、自分の指導にも生かせる内容だった。
- ・「寒天でレリーフを作る」：特別支援の生徒に身につけたいスキルを含んでいた・非日常的作業が新鮮でした
- ・「脳科学と特別支援教育」：脳の機能や構造、発達科学について、とてもわかりやすい講義で、すぐ実践できそうな内容だった
- ・「アイスブレイク・エンカウンター・フィールドワーク」：どのように児童と行動すれば良いかを学び、本で読むのとは異なりすぐに現場で生かせる内容で、周りの職員にも広めることができた

＜心理・哲学等＞

- ・「子どもを変える心理学」：なるほどと思う内容が多く、具体的な事例もあり、大変参考になった
- ・「心理学からのクリティカルシンキング」：今までと違った方向から物事を考えることができた
生徒と向かい合う上で参考になった
- ・「仏教」：宗教としてではなく考え方と日本人への影響という視点が新鮮だった
- ・「子どもを変える心理学」：三つの事例から具体的にどのように子どもたちに接していくかわかりやすかった・日常の教育実践に取り入れていけると感じた

○＜環境教育＞

- ・「稲作農業と地域保全の～日本とタイの稲作農村の事例から～」：自分の世界が広がった
- ・「長野県の森林の植生や水利の変遷についての講習」：得られた視点を授業に生かすことができた
- ・「緑の景観保全」：環境について視点を広げることが出来た
- ・「環境の変遷と緑の役割」：紫外線についての実情が具体的に説明され、非常に身近に感じられた
- ・「地図から防災を考える 防災地理教育講座」：地図上で考える避難対策についての実習や、古地図から見る危険地形の判断など具体的に新しい見方を授業に取り込んでいます
- ・「信州の気候風土を生かした住環境教育」：授業の中に生かせる内容であった

○＜国際化＞

- ・「国際理解教育にかかわる講習」：講習の内容、形式（グループ活動等）がとてもよく、他の先生方ともつながりが持て、学習が深められた
- ・「アフリカ森の民のライフサイクルから学ぶ知恵」：自分が思いもしなかった生活と価値観を知ることができた
- ・「外国籍生徒とともに学ぶ国際交流のあり方」：日頃の教育実践と直結していたため
- ・「移民と移動の社会学—外国人集住従都市の事例を中心として—」：外国人の子ども、親への対応

は現場では個別の問題としてしかとらえることが出来ないが、社会学として学問的にとらえていくことが必要だと感じた

- ・「発展途上国の子どもの健康」：衛生面、食育、健康教育など、日本の生活とかけ離れている国の現状を知って考えさせられた

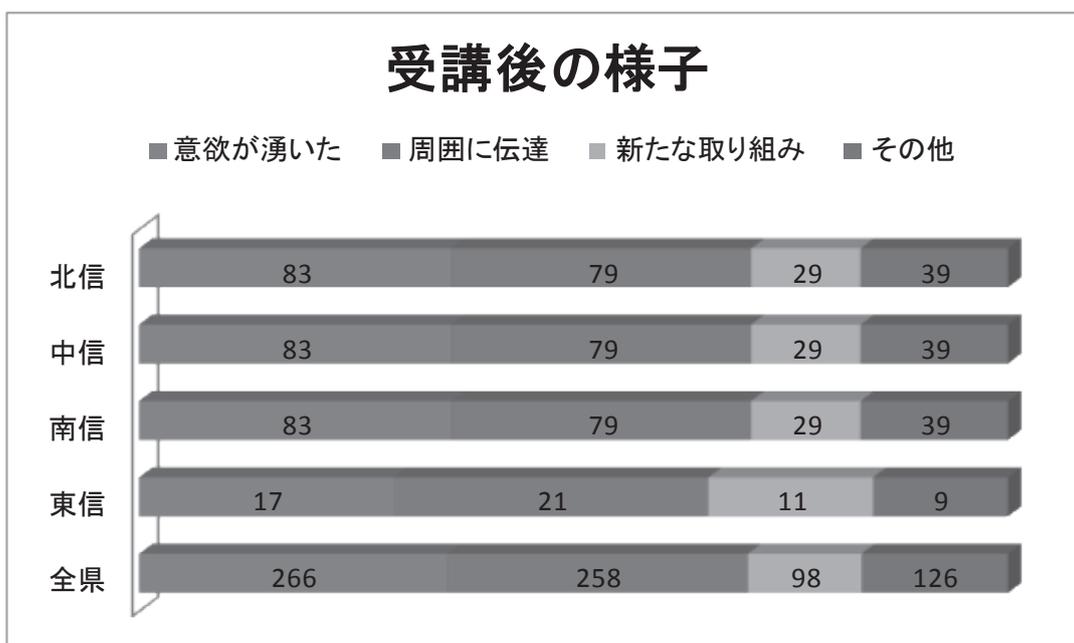
○＜食育＞

- ・「食品機能性の科学」：専門外の分野でしたが、最新の研究のお話をお聞きできたこと、これからの食の安全性という重要なことを真剣に考えることができたこと
- ・「ポリフェノールの化学」：全く今まで学習したことがなく、新鮮で大変興味深い内容だった。
- ・「家畜についての講習」：教科専門外でしたが新しいことを知るきっかけになった
- ・「学校における食育推進」：子どもたちの生活環境や食に対する意識の多様化など、考えていかなければならない問題について考えてみる事ができた
- ・「食の安全と持続的食料生産」：すぐに生徒に語って話し合いたくなる内容でした
- ・「食品機能と健康」：免疫力を高める食品や特定健康用食品等、最新の内容でありがたかった

(4) 受講後のようすについて

受講後の現在の様子については、講習で得た情報を周りの人（同僚）に伝えたり、受講することにより教育活動に新たな意欲付けとなったりする割合が、ほぼ3割程度あることから、更新講習が、教師のキャリアアップと同僚性の向上という観点からすると、一定の成果を上げていると考えられる。

ただし、新たな取り組みを展開していると回答した教員は、1割程度で今後の更新講習の改善の観点として、「初心に戻って責任を持って職務に当たらなければ」と思った教員もいる反面、「講習直後はとても刺激をいただいた。日々の教育活動には生かせていない」としている教員もあり、受講者の行動化につながる内容や方法を一層工夫する必要があるといえる。



免許状更新講習修了者に対するアンケートの調査結果から

受講年別受講後の様子	総計	21年	22年	23年	24年	25年
意欲がわき新しい取り組みをしようとしている	35	5	3	3	15	9
講習で得た情報を周りの人に伝えている	1	0	0	1	0	0
教員として新たな取り組みをしている	56	7	4	14	19	11
その他	15	3	1	2	2	7
回答者総数	657	106	64	113	180	193

年代別 受講後の様子	30代		40代		50代	
	構成比	人数	構成比	人数	人数	構成比
意欲がわき新しい取り組みをしようとしている	51	35.9%	80	27.5%	74	33.2%
講習で得た情報を周りの人に伝えている	45	31.7%	115	39.5%	63	28.3%
教員として新たな取り組みをしている	20	14.1%	39	13.4%	43	19.3%
その他	16	11.3%	42	14.4%	31	13.9%
回答者数	142		291		233	

世代別でみると、30代と50代は、「意欲がわき…」、「情報を周りに…」、「新たな取り組み」の順で、40代は、「情報を周りに…」、「意欲がわき…」、「新たな取り組み」の順であった。40代は中堅教員として学校内外で、研究等で中心となつての活躍が期待されていることが反映されているとも読み取れる。なお、50代の新たな取り組みへの意欲が40代より上がっているのは、これまでの教職経験を踏まえて「人に言うよりもまず自分でという姿」の表われとも解釈でき、前向きさがうかがえる。

続いて、自由記述から受講後の様子を探ると、30代の教員の回答をみると、「自分の知識として取り入れている」という教員もいるが、ほとんどが、受講したことでの「変化はない」としているのが、特筆されることかもしれない。30代の教員の場合、10年経験者研修と重複していることか多く、法定研修の一貫としてとらえられていると考えれば、当然のことと考えられ、別の見方で考えれば、他の世代でも同等の研修を設定することの必要性が暗に示されているともいえる。

40代の教員からは、30代の教育と同様に「変化はない」とする教員もいる反面、「教科の特性について考えることができた」「今まで気づけなかった視点、教育観に触れて、物事のとらえ方が変わってきた」「学年主任等の年齢になつての受講であつたので同僚を支え、守る育てるという責任も感じることもできた」といった感想が出されているように、10年経験者研修以降、法的な必修研修が課せられていない中堅教員にとっては、改めて「教師としての自分」「組織の中の自分」を見返す機会になっていると考えられる。しかし、「講習直後はとても刺激をいただいた。日々の教育活動には生かせていない」「更新講習は研修を受けるいい機会となつたが日常生活に戻ると日々の仕事に追われている」といった感想

のように、行動化につなげるための教育現場でのしくみづくりも考えていかなければならないことが示唆された。

50代の教員も他の世代同様「変化はない」とする教員もいるが、「新たに学習、研修したいと思った」「教養として自分自身の蓄えとなっている」「専門外の講習は、自分の興味がある分野だったので、人としての幅が広がり知識が豊かになりました」というように、世代が持つ価値観なのかもしれないが、自分の教養を高めるという観点で有効に機能していると考えられる内容が多かった。反面、学んだ内容を「生かしきれていない」と感じている教員も複数いることから、「変化なし」と回答している教員の中にも、「生かしきれていないので変化はない」と予想される側面もあるので、長年の教育活動に対する取り組み方や授業実践のスタンスが固定化されてしまっていると、なかなか自己変革を望むのは難しいという側面も語られているといえる。

校種別 受講後の様子	総計		小学校		中学校		特別支援 学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
意欲がわき新しい取り組みをしようとしている	205	31.2%	128	33.2%	70	28.5%	6	35.3%	1	12.5%
講習で得た情報を周りの人に伝えている	223	33.9%	129	33.4%	87	35.4%	5	29.4%	2	25.0%
教員として新たな取り組みをしている	102	15.5%	51	13.2%	45	18.3%	4	23.5%	2	25.0%
その他	90	13.7%	54	14.0%	30	12.2%	3	17.6%	3	37.5%
回答者数	657	100.0%	386	100.0%	246	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

校種別にみると、小学校は3割が「意欲がわき…」と「情報を周りに…」次いで1割強が「新たな取り組み」、中学校は3割以上が「情報を周りに…」次いで2割強が「意欲がわき…」で、「新たな取組み」が1割代となっている。

共通していることは「新たな取組み」が低い傾向にあり、受講をきっかけに何らかの行動を起こしている教員はあまりいないのが現状で、講習が教員の自己変革を生み出すきっかけとなるような工夫が求められているともいえる。

[受講後の様子についての自由記述]
<ul style="list-style-type: none"> ・特に変化はない (30代中学校) ・特に変化なし (30代小学校) ・特に変化無い (30代中学校) ・変化ない (30代中学校) ・変化なし (30代中学校) ・すぐに大きく変化することなかった (40代中学校) ・特になし (40代小学校) ・特に目新しく感じたものはない (30代小学校) ・特に免許更新をしたことで何が変わったということはない。日々の研修会、講習会等と位置づけに

免許状更新講習修了者に対するアンケートの調査結果から

変わりはない (30代小学校)

- ・特に新しい取り組みはしていないが日々の仕事に取り組んでいます (30代中学校)
- ・自分の知識として取り入れている (30代中学校)
- ・受講した23年度は働いていませんでした。今年度より支援員として働き始めた。 (30代小学校)
- ・特に変わらない (40代小学校)
- ・講習で大きな変化はしていない (40代中学校)
- ・特に変化なし (40代小学校)
- ・特に変わりなし (40代中学校)
- ・今のところ直接生かしている点がないように感じます (40代小学校)
- ・特に意欲のわくものではない (40代小学校)
- ・特に変化はない (40代中学校)
- ・特に変化なし (40代)
- ・受講前とあまり変わらない (40代)
- ・変わりなし (40代小学校)
- ・あまり変化はない (40代中学校)
- ・特に変わりなく日々努力しています (40代小学校)
- ・何らかの学びはあったのでしょうかけれども、特にそれを自覚できる程のことでもありません。

(40代小学校)

- ・近い場所を優先させたため、自分が学びたい講義を受けることはできなかった。従って結びつく研修はありませんでした (40代中学校)
- ・第一希望の講習内容を定員の関係で受講出来なかった。やむを得ず日程の関係であまり興味の無い講座を受講した (40代小学校)
- ・教員を続けていく困難さを感じている (40代中学校)
- ・更新できて良かった (40代中学校)
- ・あまり生かされていない部分もある (40代小学校)
- ・講習は興味深く受講することができたが、そのことを今生かしているかと問われると自信が無い生かし切れていないと思う (40代小学校)
- ・あまり生かしていない (40代小学校)
- ・今まで気づかなかった視点、教育観に触れて、物事のとらえ方が変わってきた (40代小学校)
- ・今まであまり関心がなかったことに目を向けることができるようになった (40代小学校)
- ・教科外のものを受講してしまったので、伝える等はないが、内容としてはおもしろく、教科の特性について考えることができた (40代中学校)
- ・今までの実践を継続している (40代中学校)
- ・大学在学中の教職課程にはなかった新しい情報 (40代中学校)
- ・仕事には直接関係ないが興味があったから。 (40代小学校)
- ・特にあたら棚取り組みを始めると言うことはなく現在に至っている。 (40代小学校)
- ・初心に戻って責任を持って職務に当たらなければと思います。 (40代小学校)
- ・特別新たなことには取り組んでいない (40代小学校)
- ・自分の思い描いていた内容のものは良かったのですが、少し違ったものは、少し残念でした。

(40代中学校)

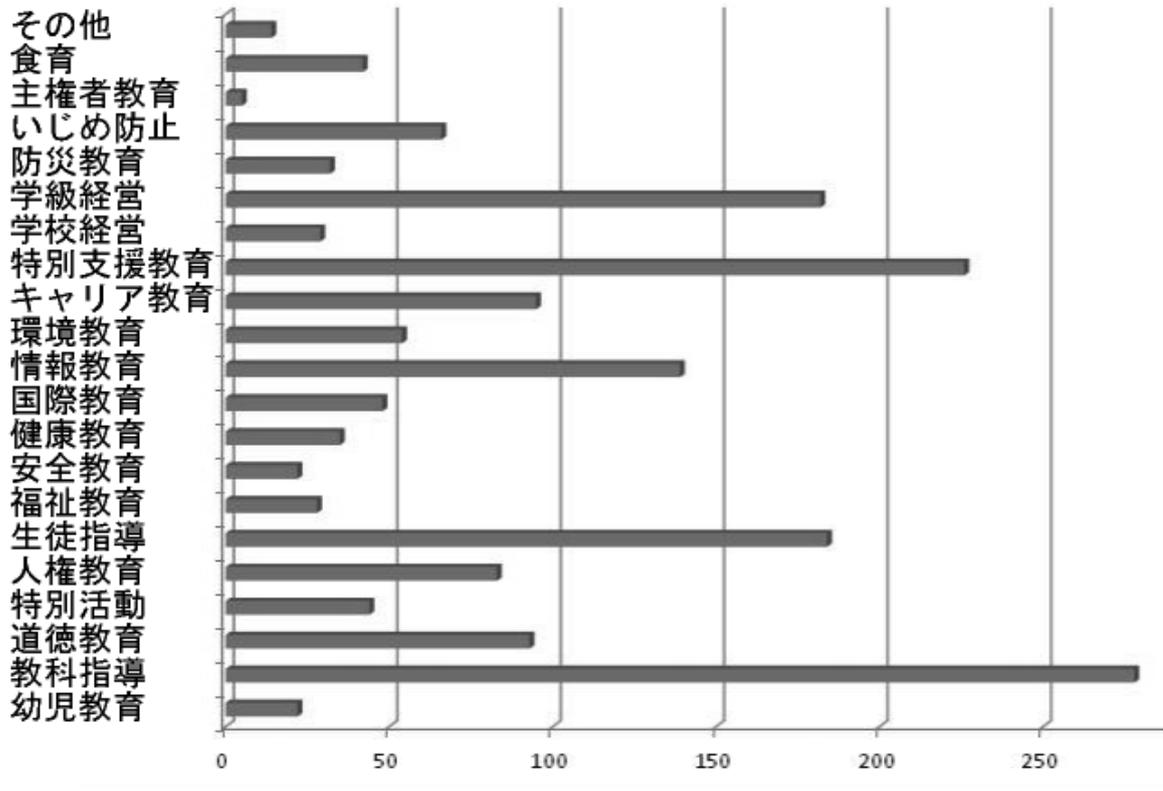
- ・講習直後はとても刺激をいただいた。日々の教育活動には生かしていない (40代小学校)
- ・新たな取り組みはあまりないが、新たな気持ちで再出発しようという気持ちにはなれた。また、学年主任等の年齢になっての受講であったので同僚を支え、守る育てるという責任も感じる事が出来るその点は今も生きている (40代小学校)
- ・なかなか選ぶことのない内容の研修を受けられて刺激になりました (40代中学校)
- ・更新講習は研修を受けるいい機会となったが日常生活に戻ると日々の仕事に追われている (40代)

小学校)

- ・自分を見つめるときが持てたので自分の可能性を広げることが出来たと思う。(40代小学校)
- ・特に日々の仕事とは関係なさそうだが知識の幅が広がった(40代)
- ・再確認できた。(40代中学校)
- ・自分で必要と思ったことを自ら研修に出向き、学び、職場に還元しているつもり(40代小学校)
- ・特に変わらない(50代小学校)
- ・今までとあまりかわりなく仕事をしています(50代小学校)
- ・以前も努力していたので特に変わらない(50代中学校)
- ・特に受講による変化はありません(50代中学校)
- ・更新講習の前後でそれほど変わったところはありません。日々充実しています(50代小学校)
- ・ほとんど役に立ちませんでした(50代小学校)
- ・特に変わらない(50代小学校)
- ・いつも通り頑張っている(50代中学校)
- ・変わらない(50代小学校)
- ・かわらない(50代小学校)
- ・教科とは関係の薄い講座でした。特に今の状況に影響はありません(50代中学校)
- ・ポジティブになれない(50代小学校)
- ・更新してほっとしている(50代小学校)
- ・興味深いもので、内容も良かったが、小学校担任としての日常に大きく影響していない。(50代)
- ・講習内容がおもしろく新たに学習、研修したいと思った(50代小学校)
- ・支援員をしているので、取り組み方が少し違います(50代小学校)
- ・直接すぐに指導に生かせるような内容ではなく知識や見識を広げるような内容だったので(50代小学校)
- ・教員としてというより一般教養としておもしろかったです(50代小学校)
- ・選択講習で自分の教科に関するものを一つしかとれません。その講習内容は、今の指導に役立ちました。専門外の講習は、自分の興味がある分野だったので、人としての幅が広がり知識が豊かになりました(50代中学校)
- ・学習に活用している(50代小学校)
- ・リセットされた気分になりました(50代小学校)
- ・最新の情報をもとに支援に生かしている(50代小学校)
- ・自分の教育に関する知識として積み重ねている(50代)
- ・教員としての現場でというより、自分の興味のあったことや知らなかったことを知る事が出来て良かったと思っている(50代小学校)
- ・教員としての自覚を再確認し納得のいく指導を目指して勤務している(50代小学校)
- ・講習で得た情報は知識、教養として自分自身の蓄えとなっているが直接的に日常での指導に反映されていない(50代小学校)
- ・担当学年で即生かせない事も多いので資料と考えている(発想のヒントとしても)(50代小学校)
- ・講習で得たものを教員としてだけでなく人間として全部の面で役立てようとする気持ちになった(50代小学校)

(5) 充実を望む内容について

受講した結果やその後の実践への活用のあり方を踏まえて、充実を希望する内容については、全体で見ると、



- ①教科指導
 - ②特別支援教育
 - ③生徒指導（いじめ防止を含む）
 - ④学級指導
 - ⑤情報教育
- であった。

受講者にとって、日常の指導に直結する内容に要望が高いことがうかがわれる。

しかし、要望数は前述の5つに比べ少ないものの、「道徳教育」「人権教育」「特別活動」「キャリア教育」などは、学校教育のベースとなる内容と思われ、すぐに明日からでも活用できる「ノウハウ」が、教員にとっては学びたい切実な内容となっていることが伺える。

また、環境教育、学校運営、防災教育などの講座は、要望数に多くは表れないが、その他の項での受講要望が多い内容で、今後の教育実践を考えていく上で、これらは重要であると考えている現れであると考えられる。

充実を望む内容	30代	40代	50代
幼児教育	4.9%	4.1%	1.3%
教科指導	50.7%	42.6%	36.8%
道徳教育	20.4%	12.4%	12.6%
特別活動	8.5%	6.5%	5.8%
人権教育	9.9%	12.4%	14.8%
生徒指導	26.8%	31.6%	24.2%
福祉教育	3.5%	4.8%	4.0%
安全教育	2.1%	4.5%	2.7%
学校健康教育	2.8%	6.2%	5.8%
国際教育	4.2%	6.9%	9.9%
情報教育	21.1%	19.2%	23.8%
環境教育	4.9%	7.9%	10.8%
キャリア教育	16.9%	13.4%	13.9%
特別支援教育	30.3%	32.3%	39.5%
学校運営	4.9%	6.2%	1.8%
防災教育	4.9%	4.1%	5.8%
いじめ防止	7.0%	9.3%	13.0%
主権者教育	1.4%	0.7%	0.4%
食育	5.6%	7.9%	4.9%

年代別でみると、要望の高い内容は、教科指導（42.3%）・特別支援教育（34.4%）・生徒指導（28%）・学級経営（27.7%）・情報教育（21.2%）・キャリア教育（14.5%）・道徳教育（14.2%）・人権教育（12.6%）・いじめ防止（10.0%）の順である。

教科指導、学級経営（幼児教育）は年代が上がるに従って割合が下がっており、教育実践を積むことによって得られる経験知（経験的に身につけた方策）を、日々の実践の中で活用していることの表れや授業に対する慣れとの関連が予想される。

特別支援教育や防災教育は50代がやや高く、これまでの経験では対応しきれない何か、つまり「教育現場での新たな必要感」を感じていると予想される。

生徒指導（安全教育、学校運営、食育）は40代が高めである。学校内で直接の関わりが他の年代より多いことが要因と考えられる。

道徳教育や主権者教育は30代にやや高く、40代・50代は程同じ割合で、受講年度における違いはあまりないので、年齢が若く、教職経験が浅い教員にとっては、道徳教育に指導上の困難を感じていると考えられる。

人権教育、いじめ防止、国際教育、環境教育は、年代が上がるにつれて高くなる傾向があり、指導に対する受け止め方の意識が年齢や経験年数などの状況によって異なるといえ、世代間による教員に求められている対応力の違いと考えることもできる。

免許状更新講習修了者に対するアンケートの調査結果から

校種別充実を望む内容	総計		小学校		中学校		特別支援学校		その他	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
幼児教育	22	3.3%	18	4.7%	1	0.4%	2	11.8%	1	12.5%
教科指導	278	42.3%	162	42.0%	107	43.5%	6	35.3%	3	37.5%
道徳教育	93	14.2%	49	12.7%	41	16.7%	3	17.6%	0	0.0%
特別活動	44	6.7%	29	7.5%	13	5.3%	1	5.9%	1	12.5%
人権教育	83	12.6%	45	11.7%	35	14.2%	1	5.9%	2	25.0%
生徒指導	184	28.0%	94	24.4%	84	34.1%	4	23.5%	2	25.0%
福祉教育	28	4.3%	19	4.9%	6	2.4%	3	17.6%	0	0.0%
安全教育	22	3.3%	17	4.4%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
学校健康教育	35	5.3%	24	6.2%	10	4.1%	1	5.9%	0	0.0%
国際教育	48	7.3%	30	7.8%	16	6.5%	0	0.0%	2	25.0%
情報教育	139	21.2%	78	20.2%	55	22.4%	5	29.4%	1	12.5%
環境教育	54	8.2%	34	8.8%	16	6.5%	2	11.8%	2	25.0%
キャリア教育	95	14.5%	48	12.4%	45	18.3%	2	11.8%	0	0.0%
特別支援教育	226	34.4%	154	39.9%	55	22.4%	13	76.5%	4	50.0%
学校運営	29	4.4%	8	2.1%	19	7.7%	2	11.8%	0	0.0%
学級経営	182	27.7%	124	32.1%	55	22.4%	1	5.9%	2	25.0%
防災教育	32	4.9%	20	5.2%	12	4.9%	0	0.0%	0	0.0%
いじめ防止	66	10.0%	37	9.6%	28	11.4%	1	5.9%	0	0.0%
主権者教育	5	0.8%	3	0.8%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
食育	42	6.4%	32	8.3%	8	3.3%	1	5.9%	1	12.5%
その他	14	2.1%	8	2.1%	5	2.0%	1	5.9%	0	0.0%

各校種で充実を望む内容をみると、小学校では①教科指導・特別支援、②学級経営、③生徒指導・情報教育で、中学校では①教科指導、②生徒指導、③情報教育・特別支援・学級経営で、特別支援学校は①特別支援、②教科指導、③情報教育、④道徳教育・福祉教育となっている。

次に、小学校と中学校とを比較してみると、小学校が中学校より希望が高い項目は、幼児教育・福祉教育・特別支援教育・学級経営・食育で、中学校が小学校より希望が高い項目は、生徒指導・キャリア教育・学校経営で、小学校と中学校がほぼ同じ割合の項目は、教科指導・道徳教育・特別活動・人権教育・安全教育・健康教育・国際教育・情報教育・環境教育・いじめ防止・主権者教育であった。

特別支援学校の小学校・中学校より希望が高い項目は、特別支援教育・幼児教育・福祉教育・情報教育・学校経営であった。

それぞれの学校種が置かれている状況が反映されていると読み取ることができ、その違いを意識して講習の内容を検討していくことと、受講も校種別に対応することも必要といえる。

(6) まとめ

免許状講習が 今後の実践に 役立つか	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	人数	構成比								
そう思う	9	8.5%	11	17.2%	15	13.2%	19	10.6%	9	4.7%
思う	77	72.6%	38	59.4%	68	59.6%	114	63.3%	122	63.2%
思わない	11	10.4%	12	18.8%	23	20.2%	34	18.9%	45	23.3%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	9	8.5%	3	4.7%	8	7.0%	13	7.2%	17	8.8%
合計	106	100.0%	64	100.0%	114	100.0%	180	100.0%	193	100.0%

免許状更新講習は、研修とは異なり資格認定という性格上、受講内容がすぐに活用できるとは言い切れない部分もあるが、新任者でなく少なくとも数年の教職経験があること考えると、講習での学びを教師自身の中で消化して、次のステップへ自らの力でつなげていくということができなければ、「資質の向上」という観点からしたときに、何のための講習なのかという根本的なところでも課題が発生してしまう。

その意味で、受講年度ごとに今後の実践に役立つものであったかの回答を表に示したが、「そう思う」「思う」の合計が、おおよそ7割強から8割弱を示していることから、それなりに、講習での内容を自分なりに消化しようとしてはいる姿が見受けられるが、前述の「生かしているか・変化がみれるか」の記述でもみたように、世代が下がるに従って、「変化なし」としている教員が増えることから、自らの教員としてのライフステージをどのように構築していくかという視点を、改めて強化する必要があるといえる。

アンケート全体を通して教員が訴えていることは、「即授業に活かせる内容」がほしいということであった。更新講習の目的である「最新の知識・技能の修得」そのものと重なるが、講習後実際に内容を自身の実践に生かしているかというところとそれほどでもないことから考えると、「何か」明日の授業や生徒指導などで即効のあるものを教師は日々求めていて、ユーザー感覚で教育実践を展開している姿がうかがえる。

教員の資質向上がうたわれている根底には、教師自身が教育課程の設計者であり実行者で、状況に応じて最適の教育実践を展開できるようになることが重要ということがある。

講習を受けたことで、新しい知見が得られたとか興味を持ったという感想を持つ反面、日々の教育実践に活かせる内容でなかったと考えている教師の姿から、今後、教師はその意味でカリキュラム・デザイナーとして日々の実践に望まなければならないという発想を、どのように育成していくが大きな課題として示されたといえる。